



## SYNESIS バージョン 8.0 リリースノート

2023-05-22

Version 8.0.1

### アップグレード

2 種類のアップグレード方法、アップグレードパッケージとリカバリメディアを提供します。

	アップグレードパッケージ	リカバリメディア
操作	下記 2 種類のパッケージをこの順で適用します 1. 拡張アップグレードパッケージ 2. SYNESIS V8.0 パッケージ	システムリカバリを実施します
所要時間	60~90 分	90~120 分
既存のデータと設定	引き継がれます	失われます
適用可能バージョン	V6.5.1 以降	全バージョン
適用可能モデル	次章に示すモデルです	

### アップグレード適用可能モデル

SYNESIS Portable			SYNESIS Distributed	
SYS-2G-EP3	SYS-40G-HPP2	SYS-100G-HPP3	SYS-2G-ER2	SYS-20G-HPR2
SYS-4G-HPP3	SYS-50G-HPP	SYS-200G-HPP2	SYS-4G-R	SYS-20G-HPR3
SYS-10G-EP2	SYS-80G-HPP3		SYS-4G-R2	SYS-40G-HPR3
SYS-20G-HPP3	SYS-100G-HPP2		SYS-8G2-HCR	SYS-80G2-HPR3
SYS-20G-HPRP	SYS-100G-HPP2B		SYS-10G-ER2	SYS-100G-HPR3

### 新規製造可能 P/N

Control Unit P/N			Capture Module P/N	
SYxB-2GP3	SYxB-100GP2	SYxB-8GR1-C (*2)	SYxC-1G4N1-HP	SYxC-10G4N1-HP
SYxB-4GP2	SYxB-100GP3	SYxB-8GR2-C (*2)	SYxC-1G4N1-LE	SYxC-10G4N1-LE
SYxB-10GP3	SYxB-100GP4	SYxB-10GR2	SYxC-1G2N1-HPL	SYxC-25G2N1-HPL
SYxB-20GP2	SYxB-200GP2 (*1)	SYxB-10GR3	SYxC-10G2N1-HP	SYxC-25G4N1-HP
SYxB-40GP2	SYxB-200GP3 (*1)	SYxB-20GR2 (*2)	SYxC-10G2N1-LE	SYxC-100G2N2-HP
SYxB-50GP1	SYxB-2GR1-C	SYxB-20GR1-CP (*2)		
SYxB-50GP2	SYxB-2GR2-C			

(\*1) パケットプレイヤー長時間リプレイオプションを適用可能です。

(\*2) External Storage を増設可能です。

## 新機能

---

- 1) インバウンドトラフィックを受信するチャンネルとアウトバウンドトラフィックを受信するチャンネルを 2 つ組み合わせて、1 つのチャンネルグループとして扱うことができるようになりました。チャンネルグループを使用すると以下を実現できます。[#23316]
  - NPM や APM 解析結果の表示やレポート作成におけるデータソースとしてチャンネルグループを選択
  - キャプチャセッションのチャンネル名にチャンネルグループの名称を適用
  - トレースファイルのインタフェース名としてチャンネルグループの名称を適用
- 2) キャプチャ時のスライス機能に、パケットの L4 ヘッダの末尾でスライスする機能を追加しました。本機能は SYNESIS 全体またはチャンネル単位で適用することができます。[#22813]
- 3) キャプチャセッションの統計情報として、「通過」(パケット重複除去機能やハードウェアフィルタ機能で排除したパケット数を含まない受信パケット数)を追加しました。[#22587]
- 4) 各チャンネルのリンク状態およびリンクスピードをツールチップやダイアログとして表示する機能を追加しました。[#22641]
- 5) 各種解析を実施する際に、解析対象のパケットを限定するためのソフトウェアフィルタを適用することができるようになりました。当フィルタはリアルタイム解析・ポスト解析のどちらにでも適用可能です。[#924]
- 6) デコード機能において、ESP や TLS で暗号化されたパケットのペイロードを、復号化して表示することができるようになりました。[#22283]
- 7) デコード機能において、イーサタイプや IP プロトコル、L4 ポート番号を各種プロトコルに割り当てることができるようになりました。[#22283]
- 8) SYNESIS の各種通知で使用する SNMP Trap の MIB 構成を一新しました。ただし、引き続き旧 MIB 構成による送信も選択可能です。[#19492]
- 9) SYNESIS の各種通知で使用する syslog の設定として、facility を変更することが可能となりました。[#22698]
- 10) Management Console に「Fault Detect」機能を追加しました。当機能により従来「チェッカーツール」として提供していた各種機能を GUI 上で設定・有効化することができるようになりました。従来の CLI 版の「チェッカーツール」も引き続き利用することができます。[#22586]

## Version 7.5 からの仕様変更

---

- 1) キャプチャセッションのビットレート計算方式として、従来は受信フレームのバイト数に IFG(Inter Frame Gap)を含まないで計算していましたが、IFG を含んだバイト数で計算するように変更しました。[#22586]
- 2) パケットリプレイヤーのプロファイルで指定するストリームの固定レートの値として 1000 以上の整数を指定できるようになりました。これにより従来は 1.5Gbps のような中間の指定ができませんでしたが、単位を変えて Mbps にし、値に 1500 を指定することでこれができるようになりました。[#23886]
- 3) SYNESIS の GUI やマニュアルで使用する用語を変更しました。[#21740]  
主な変更点を以下に示します。

旧用語		新用語	
日本語	英語	日本語	英語
キャプチャフィルタ	Hardware Filter	ハードウェアフィルタ	Hardware Filter
保存フィルタ	Filter	ソフトウェアフィルタ	Software Filter
ビットレート	Throughput	ビットレート	Bitrate
センタースパン	Position/Range	ポジション/レンジ	Position/Range

- 4) RESTful API 2.0 の"PUT /agents/capture/start"でキャプチャ開始する際、スライス、ディスクフル時の動作、重複パケットの除去の設定をキャプチャオプションから引き継ぐように変更しました。また、当 API でハードウェアフィルタの指定を省略した場合もキャプチャオプションのハードウェアフィルタ設定を引き継ぐようにしました。 [#25554]

## Version 7.5 からの改善点

---

- 1) ソフトウェアフィルタ非使用時のトレースファイル保存時間が約 30%短縮しました。[#21586]
- 2) チャンネルフィルタを含むソフトウェアフィルタを使用した場合のトレースファイル保存時間が短縮されました。たとえば 4 チャンネルすべて同レートでパケットを受信している状況で、チャンネルフィルタにより 2 チャンネルに限定した場合、最大で 50%の時間短縮となります。[#21586]
- 3) 各種脆弱性の対策として 3rd party ライブラリを更新しました。[#24529, #24827, #25498]
- 4) GUI パケットリプレイヤーの指標テーブルに表示するパケット列とバイト列を入れ替えました。[#6911]
- 5) トレースファイル一覧表示画面のサイズが 1KB 未満のファイルについて、単位がバイト数であることが分かるように表現を変更しました。(例: 980 → 980 B) [#10924]
- 6) SYNESIS デスクトップ画面を無操作で放置した場合に、5 分後にブランクスクリーンを表示するように変更しました。この改善は Version 8.0 でリカバリした場合にのみ適用され、Version 7.5 以前からアップグレードした場合には適用されません。[#24826]

## 修正した不具合

---

- 1) パケットリプレイヤーの使用率が正しく表示されない不具合を修正しました。[#24076]
  - ◇ 本不具合はバージョン 6.0 以降で発生していました。
- 2) Capture Module として SYxC-100G2N2-HP を使用しており、かつ 10G/1Gx2 のプロファイルを選択している場合、CLI パケットリプレイヤーでパフォーマンスモードによるリプレイができない不具合を修正しました。[#23792]
  - ◇ 本不具合はバージョン 5.0 以降で発生していました。
- 3) Control Unit が SYxB-100GP1-7300MAX の SYNESIS において、キャプチャセッションを使用したパケットリプレイがエラーになる不具合を修正しました。[#20500]
  - ◇ 本不具合はバージョン 6.5 以降で発生していました。
- 4) Capture Module として SYxC-25G2N1-HPL を使用している場合、SYNESIS の起動時にキャプチャサービスが起動しないことがある不具合を修正しました。[#22343]
  - ◇ 本不具合はバージョン 7.5 以降で発生していました。
- 5) 統計情報を CSV ファイルへエクスポートした際に、不正な空データが追加されることがある不具合を修正しました。[#24438]
  - ◇ 本不具合はバージョン 3.5 以降で発生していました。
- 6) RESTful API 2.0 の"POST /hardwareFilters/flow"でフローフィルタを作成する際に"I4Type"パラメータを省略すると、500 エラー (Internal Server Error) が返却される不具合を修正しました。[#24792]
  - ◇ 本不具合はバージョン 6.0 以降で発生していました。
- 7) SYNESIS GUI のアラート画面において、アラート情報一覧表の「データソース」列に不正な文字列が表示される不具合を修正しました。[#24719]
  - ◇ 本不具合はバージョン 6.5 以降で発生していました。

- 8) 全てのエラー項目を選択したエラーフィルタをトレースファイル生成時のフィルタに指定した場合、ラントエラーのフィルタのみ適用されない不具合を修正しました。[#24861]
  - ◇ 本不具合はバージョン 3.0 以降で発生していました。
- 9) 設定のバックアップ・リストアで、ファイル名に「.」を含むバックアップファイル作成が失敗する不具合を修正しました。[#24044]
  - ◇ 本不具合はバージョン 7.0 以降で発生していました。
- 10) トレースバンカーにファイルをアップロードした際、ファイル一覧のソートが解除されることがある不具合を修正しました。[#18417]
  - ◇ 本不具合はバージョン 3.5 以降で発生していました。
- 11) トレースファイルの保存時、ビルトインフォルダの空き容量が不足している際に「不明なエラー」と表示される不具合を修正しました。[#25127]
  - ◇ 本不具合はバージョン 2.5 以降で発生していました。
- 12) キャプチャオプションを一度も保存していない状態で RESTful API 2.0 によるキャプチャの開始および停止が正常に動作しない不具合を修正しました。[#25492]
  - ◇ 本不具合はバージョン 6.0 以降で発生していました。
- 13) キャプチャトリガオプションの「キャプチャトリガ有効」チェックボックスのチェックを外しても、キャプチャトリガが無効とならない不具合を修正しました。[#25526]
  - ◇ 本不具合はバージョン 7.0 以降で発生していました。
- 14) "admin"以外の管理者ユーザがキャプチャトリガオプションを設定した場合、設定が適用されない不具合を修正しました。[#25526]
  - ◇ 本不具合はバージョン 7.0 以降で発生していました。
- 15) ハードウェア・パターンフィルタ設定画面の下部が見切れる不具合を修正しました。[#25629]
  - ◇ 本不具合はバージョン 6.0 以降で発生していました。

## 既知の不具合

---

- 1) リモートデスクトップと本体画面で同時に SYNESIS OS にログインすると、画面が操作不能になることがあります。[#25510] (2023-06-07 追加)
  - ◇ 本不具合はバージョン 8.0.1 以降で発生します。
  - ◇ 詳細および復旧情報は、別紙 [KnownIssue\\_25510\\_RDP\\_jp.pdf](#) を参照ください。